

教師の学び合いから 授業力を高めよう！



授業・単元づくり支援資料集

目 次

- 1 この資料を活用すると…………… p 1
- 2 授業・単元構想力、実践力を高める授業・単元づくりの過程…………… p 2
- 3 よりよい授業・単元づくりのための4つの方法とは…………… p 3
先行授業の参観
コーチングと板書を活用した先行授業のリフレクションへの参加
授業づくり相談
コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクション
- 4 よりよい授業や単元を構想し、実践する指導者の資質能力とは…………… p 5

*コラム 授業リフレクションとは…………… p 6
- 5 授業・単元構想力、実践力を高める授業・単元づくりの過程の活用例…………… p 7
一般的な授業・単元づくりの過程
「特に力をつけたい」と考える授業・単元づくりの過程
「時間的な余裕もほしい」と考える授業・単元づくりの過程
「他の教師の授業から学びたい」と考える授業・単元づくりの過程 その1
「他の教師の授業から学びたい」と考える授業・単元づくりの過程 その2
- 6 「特に力をつけたい」と考える授業・単元づくりの過程の展開例…………… p 9

*コラム コーチングや板書をリフレクションに活用する理由…………… p 12
- 7 コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクションの基本形…………… p 13

*コラム コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクションの実践例…………… p 18
「前橋市立宮城小学校での実践」

*コラム 学校での活用に向けて…………… p 19
- * 活用のための資料
授業改善シート（参観者用）…………… p 20
自己リフレクションシート…………… p 21

1 この資料集を活用すると・・・

この資料集のねらいと、活用するとどのような効果が期待できるかを示しました。

学び続ける、成長し続ける教師でいきましょう！

学力の向上は『授業づくり』からという認識を教師一人一人がもつことが大切です。教師が自覚的によりよい授業づくりに取り組んでいこうとすることが大切です。

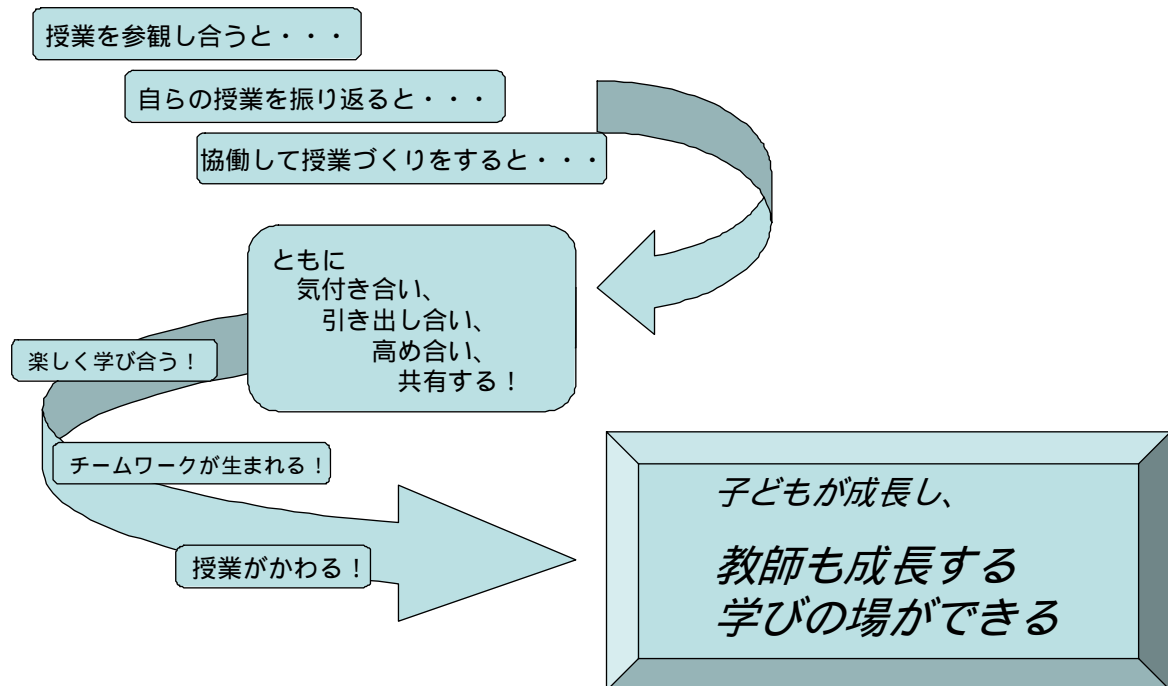
よりよい授業とは、子どもに学ぶ意欲を持たせ、学習内容の確実な定着をはかり、確かな学力を育む授業だと思えます。それを実現するためには、教師一人一人の授業や単元を構想する力、実践する力の伸長が必要です。

そのために、教師が自分の授業を適切に振り返り、授業を改善していくことと、教師同士の学び合いが必要であると考えました。

そこで、よりよい授業を目指し、子どもたちが確かな学力を身につけることができるようにするために「授業・単元づくりにおける効果的な授業研究会の方法」を示しました。

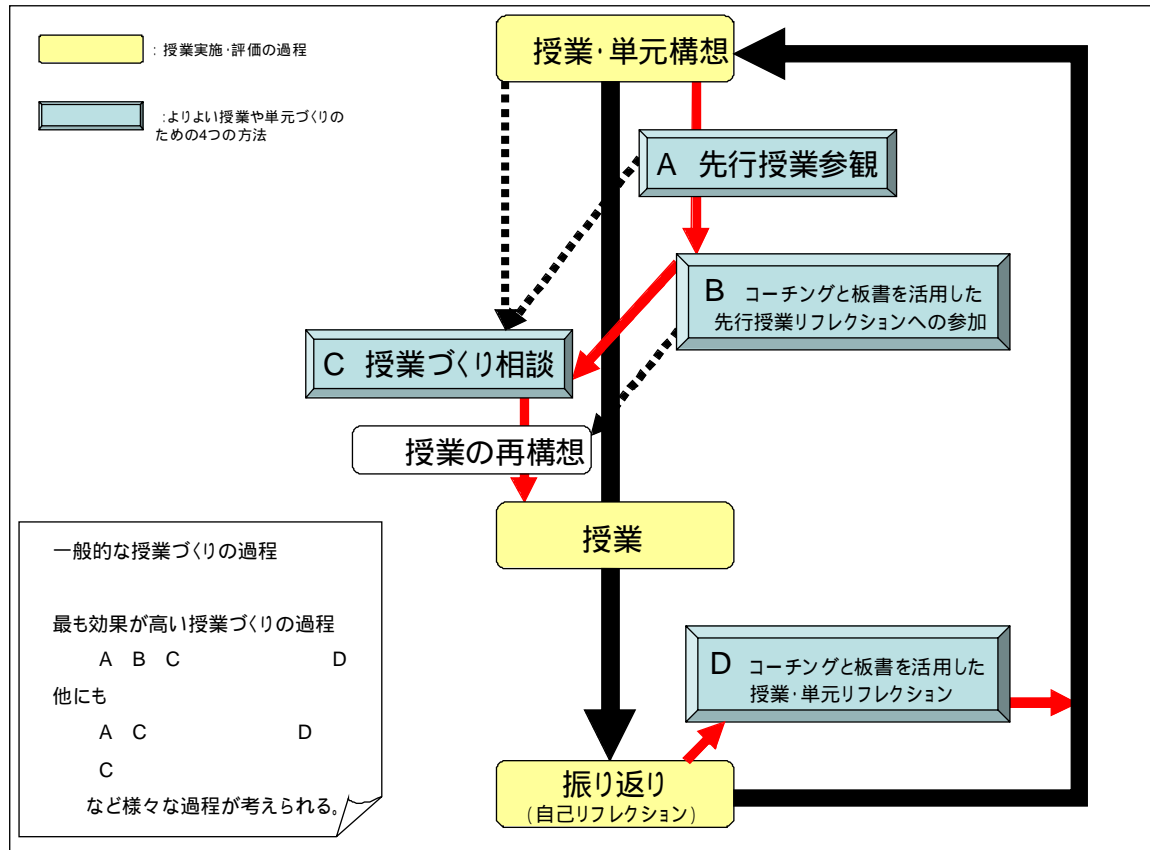
授業力向上への取り組み方は多々あると思いますが、教師同士の学び合いに着目したひとつの方法を示したものです。

この資料集をもとに



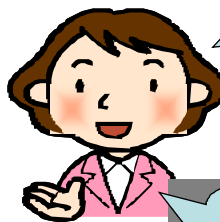
2 授業・単元構想力、実践力を高める授業・単元づくりの過程

下の図は、授業・単元づくりの過程の中に、よりよい授業・単元をつくる4つの方法を位置づけて、授業・単元構想力、実践力を高める授業・単元づくり流れを示したものです。



授業や単元を構想し、実施、評価・改善していく過程としては、「授業・単元の構想」「授業の実施」「振り返り(自己リフレクション)」という一般的な授業・単元づくりの過程が考えられます。この過程の中に、4つの方法を取り入れていくことでよりよい授業や単元を構想し、実践・評価していく力が高まっていくと考えます。

4つの方法を取り入れて授業づくりをしていくことで、よりよい授業や単元を構想し、実践・改善していく力が高まっていくと考えます。



一般的な授業づくりの過程を生かして、上の図のように、

「授業・単元の構想」「授業」の間に、
 「A 先行授業参観」
 「B コーチングと板書を活用した先行授業のリフレクションへの参加」
 「C 授業づくり相談」 を入れます。

また、授業後の

「自己リフレクション」の後に
 「D コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクション」を入れ、授業者と参観者等による複数で、授業についての振り返りを行います。

3 よりよい授業・単元づくり のための4つの方法とは

よりよい授業や単元づくりのための4つの方法の解説をしました。

先行授業の参観

「先行授業の参観」とは、同一単元を授業していくとき、最初に授業を行う教師の授業を参観、または、VTRで録画されたものを自分自身の授業前に見ておくことです。

自分自身の授業前に、先行授業を参観しておくことで、授業づくりの参考になると考えます。



つまり、授業の組み立て方、授業の進め方、資料の精選や活用に仕方など、授業者の指導と子どもの反応や関係を見ることで、自分自身が構想していた授業の問題点に気づき、自分なりの修正案を考え、授業を再構想する力が高まると考えます。

コーチングと板書を活用した先行授業のリフレクションへの参加

先行授業のリフレクションに、先行授業の参観者が参加し、授業者と一緒に、授業について振り返りを行うことです。複数で行うことで、自分一人では気づきにくいところにも気づくことができます。

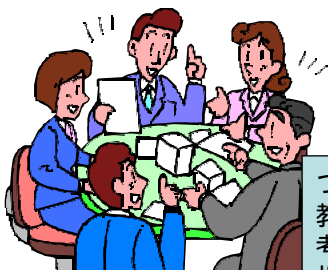
ここでは、授業者自身の主体的な気づきや成長をうながす効果をねらい、コーチングの考え方「コーチングの4つのポイント（傾聴、承認、質問、提案）」と板書を活用した集団リフレクションを行います。実施した授業のよかった点も不足だった点もまるごと受け入れて認めることで、授業者自身の気づきやその後の改善行動を自らつくり出していけるようになっていくと考えます。



つまり、授業の参観では見とれなかった授業の意図を理解できたり、参観者の代案等から自分が考えていた授業構想の問題点に気づくことができたりするため、自分なりの修正案を考える力や授業中により深く子どもを見ていく力が高まると考えます。

授業づくり相談

授業準備のために、休み時間や放課後の短い時間に、授業をつくる上での細かな課題についての話し合いを行うことです。互いの授業づくりのために、ノートや略案を見せ合ったり、授業に活用できる資料を紹介し合ったりします。



つまり、教材の解釈や子どもの実態にあった資料の精選・開発などにも役立つと考えます。相談をすることで、自分では見えない点が見えてくるとともに、相談相手に直接、教えてもらうことができるため、子どもの実態にあった授業を構想する力が高まると考えます。

コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクション

* 授業リフレクションについては、前述の コーチングと板書を活用した先行授業のリフレクションへの参加で、述べているので、ここでは、「単元リフレクション」を中心に述べます。

リフレクションは、実施した授業についての記憶が確かなうちに実施することが望ましいため1時間の授業を振り返ることが多かったと思います。

教育課程の充実の視点からは、各1時間の授業改善も大切であるが、同様に、単元や年間指導計画の改善も重要であると考えます。

しかし、単元は通常数時間以上で構成されているため、授業の記憶が不確かとなり、振り返ることがむずかしくなります。

そこで、各授業のリフレクション記録を板書に残すことにより、記録したことをもとに、単元について振り返ることができないかと考え、コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクションとしました。



授業リフレクションの記録をもとに、単元リフレクションでは、4つの観点(よりよい授業や単元を構想し、実践する指導者の資質・能力)から、整理・検討することで、今後、どんな点について、改善したり、努力したりすればよいか明確なってくると思います。

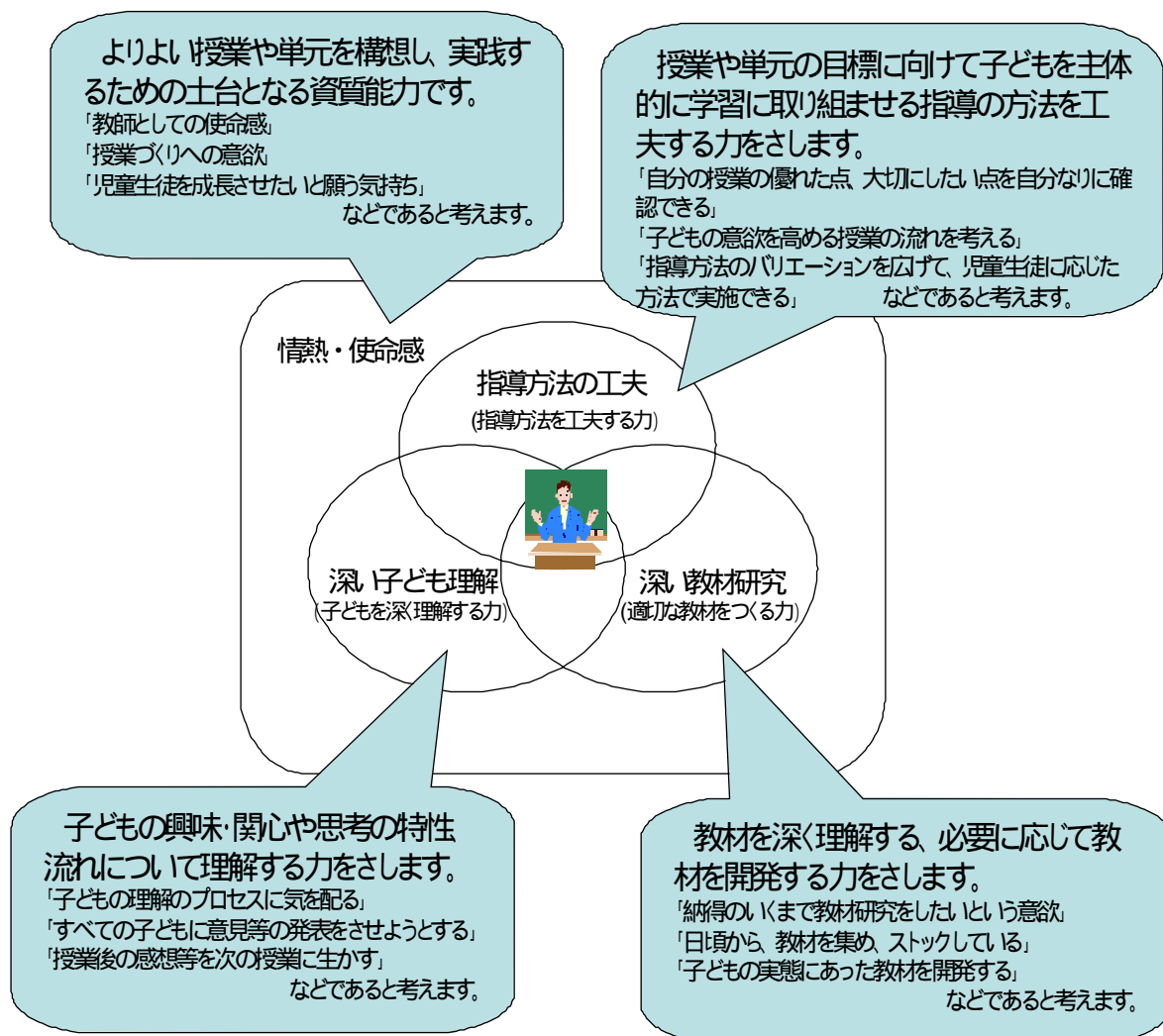
4 よりよい授業や単元を構想し、実践する指導者の資質能力とは

下の図は、本冊子作成者の経験からよりよい授業や単元を構想し、実践する指導者の資質能力をまとめてみました。

よりよい授業や単元を構想し、実践する指導者の資質能力をいままでの経験をもとに、帰納的にまとめて図示すると以下のようにになると考えます。

4つの資質能力がより高いレベルでバランスよく関連し合っていくことにより、よりよい授業や単元を構想し、実践することができると考えます。また、構想力の中にも、実践力の中にも、この4つの資質能力が重要な存在であると考えます。

4つの資質能力は相互に深く関連するため、明確に定義することは難しいです。そこで、各資質・能力の例を次に示します。



コラム リフレクションとは



リフレクションについて
簡単に解説しました。

「授業リフレクション」とは、教師が自分の授業実践を反省的に考察する授業研究の方法です。授業中に見られた子どもの事実（発言や、態度、ノート等）から学びの解釈（「なぜ」その事実が起きたのかを考える）し、自分の授業を振り返る方法で、次の3種類があります。

具体的な進め方については、「7 コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクションの基本形」に示してあります。

自己リフレクション

自分一人で自分の授業を振り返る方法です。思いつくまま振り返りますが、よかったなと思うこと、気になったこと等について自分自身の見取りや子どものノート、または、授業VTR等から考えます。

* 「自己リフレクションシート」の活用も有効です。自己リフレクションシートについては、「活用のための資料」の中で示しています



対話リフレクション

2人から3人で対話をしながら進める方法です。授業を参観したものが、授業者に質問しながら、授業者自身の振り返りを促進します。

* 「授業改善シート」の活用も有効です。授業改善シートについては、「活用のための資料」P20に示してあります



集団リフレクション

同僚教師と協働で実施する方法です。焦点化した場面について参観者が授業者に質問しながら、授業者自身の振り返りを促進します。

「授業改善シート」の活用も有効です。授業改善シートについては「活用のための資料」P20に示しています。

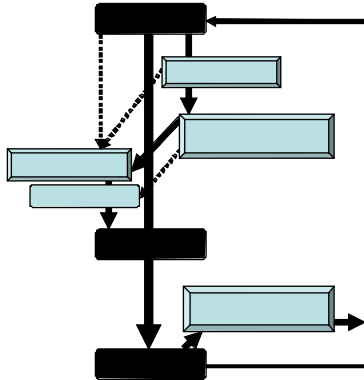


注：「コラム リフレクションとは」は、平成16年度長期研修員作成「教室をひらけば授業がかわる」p9を参考にしました。

5 授業・単元構想力、実践力を高める授業・単元づくりの過程の活用例

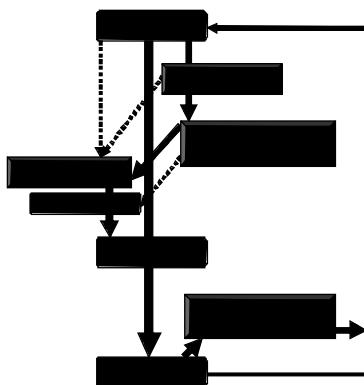
「授業・単元づくりの過程」をどのように活用するか、活用する部分を図の中で黒く表し、活用の流れを説明しました。

一般的な授業・単元づくりの過程・・・「授業・単元構想」「授業」「振り返り(自己リフレクション)」



- ・授業・単元づくりの一般的な・単元づくりの過程です。授業者自身が一人で授業・単元を構想し、授業を実施します。授業実施後、自らの見取り(自己リフレクションシートの活用等)や児童・生徒のノート等をもとに自己リフレクションを行い、それをもとに、改善に取り組み、次時以降に生かします。

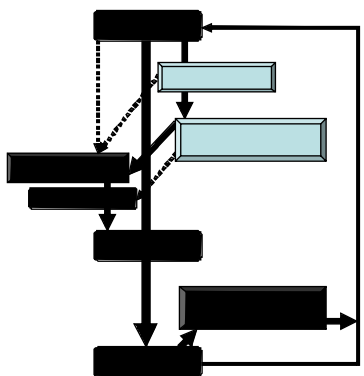
「特に力をつけたい」と考える授業・単元づくりの過程・・・



「A 先行授業の参観」「B 先行授業リフレクションへの参加」「C 授業づくり相談」「授業の再構想」「授業」「振り返り(自己リフレクション)」「D 授業・単元リフレクション」

- ・同学年、同教科の教員がチームとなって授業づくりをしていく過程です。
- ・同学年または、同教科の教員が時間差をつけて、授業を行っていく過程であり、教員同士の学び合いの場が最も多く、授業構想力、実践力を高めていくために最も効果があると考えます。
- ・時間を生み出す工夫が特に重要になってきます。

「時間的な余裕もほしい」と考える授業・単元づくりの過程・・・

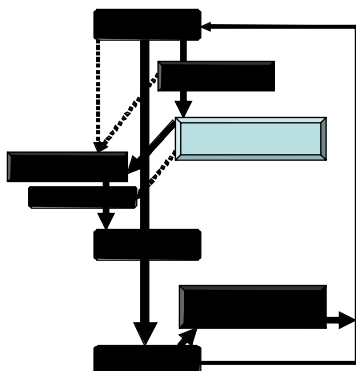


「C 授業づくり相談」「授業の再構想」「授業」「振り返り(自己リフレクション)」「D 授業・単元リフレクション」

- ・授業者の授業構想をもとに、同学年または、同教科の教員で、授業づくりの相談を行い、授業を再構想します。そして、授業を参観してもらい、参観者全員で、授業について振り返る過程です。
- ・学び合いの場を生かした流れの中では、一番、時間的な余裕を生む過程です。

「他の教師の授業から学びたい」と
考える授業・単元づくりの過程

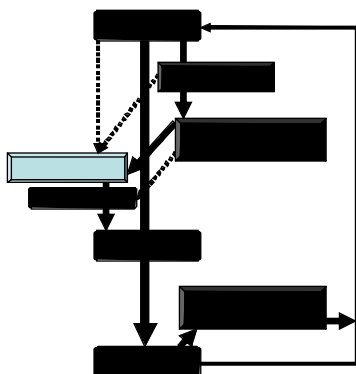
その1・・・「授業・単元構想」「A 先行授業の参観」「C 授業づくり相談」「授業の再構想」「授業」「振り返り(自己リフレクション)」「D 授業・単元リフレクション」



- ・前ページの「過程」の「C 授業づくり相談」の前に、「A 先行授業参観」を入れた過程です。
- ・他の教員の授業を参観することは、自分自身の授業構想と直接比較・検討ができ、授業づくりに大いに参考になります。参観後、授業をつくっていく上での細かな疑問（教材の解釈や指導方法等）を解決するための情報交換を行います。
- ・先行授業は、単元を通して、同じ教員が行うことを基本と考えますが、時間的な余裕があれば、単元の途中での変更も可です。

「他の教師の授業から学びたい」と
考える授業・単元づくりの過程

その2・・・「授業・単元構想」「A 先行授業の参観」「B 先行授業リフレクションへの参加」「授業の再構想」「授業」「振り返り(自己リフレクション)」「D 授業・単元リフレクション」



- ・先行授業を参観後、先行授業のリフレクションに参加し、授業者を中心に、振り返りを行います。授業参観では、見とれなかった授業づくりの意図や参観者の代案等から自分が考えていた授業構想の課題が見えてきます。
- ・細かな疑問については、授業者に質問する形で解決に向かいます。質問の内容で、授業づくり相談的な内容も解決できると考えます。

前記した過程のほかにも、様々な過程が考えられます。各学校や学年などの実態や時間の確保の問題等に応じて、何を活用することが、より効果的に教員の職能成長が図れるか考えて活用していただければと考えます。

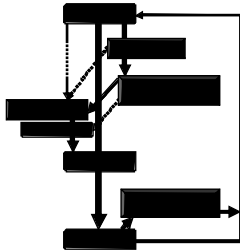
ただし、前記に示した過程は、どれも「授業・単元リフレクション」は必ず行っています。

それは、「**授業者自身の気付き**」を最も大切にしたいという思いからです。



6 「特に力をつけたい」と考える 授業・単元づくりの過程の展開例

よりよい授業や単元をつくるための4つの方法
すべてを活用した授業・単元づくりの過程の展
開例を示しました。



授業・単元構想

小学校であれば同学年の教員、中学校であれば同教科の教員が同じ単元の授業を時間差をつけて実施します。

先行授業を参考にし、次に行う教員は自分の授業構想案を修正し、授業を実施します。互いの授業を参考にその授業の修正案にそった授業を実施し、一緒に振り返ることにより組織として継続的に授業改善を行っていくことができると考えます。

このような継続的な授業づくりに取り組むことにより、よりよい授業や単元を構想し、実践する資質能力を高めることができると考えます。

授業・単元を構想するときのポイントとしては、

授業に対する授業者の願い・想い
授業・単元のねらい
単元の終末における
理想の授業イメージ、
成長した子どもの姿のイメージ
授業者の課題
児童・生徒の実態
教材の解釈
指導方法の工夫

等を明確にもつことが
大切です。

こんな授業をしてみたい！
よし、がんばるぞ！



A 先行授業参観

先行授業参観のポイントは、

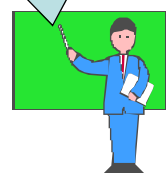
授業・単元構想であげられた
理想の授業を実現するために必要なこと
授業者の課題
教材の解釈を深める
指導方法の工夫
教材の解釈

等を解決するために観点を持って、授業者の言動や
子どもの学びの姿を注意深く見ていくことが大切です。

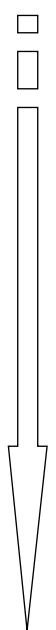
授業	単元	単元	単元	単元
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35
36	37	38	39	40
41	42	43	44	45
46	47	48	49	50
51	52	53	54	55
56	57	58	59	60
61	62	63	64	65
66	67	68	69	70
71	72	73	74	75
76	77	78	79	80
81	82	83	84	85
86	87	88	89	90
91	92	93	94	95
96	97	98	99	100

授業改善シートの活
用も有効です(詳しくは「活
用のための資料」P20をご覧く
ださい。)

観点をもって参観しま
しょう！
気づき大切です。



B 先行授業のリフレクションへの参加



先行授業リフレクションへの参加のポイントは

コーチングの発問を活用し、子どもの姿から、実施した授業のよかった点、不足していた点を明確にします。

例えば、
「子どもにとってどんなよいことがあるのか」「なぜ～という支援をしたのか」などを問うことで、具体的な子どもの姿が浮かんできます。よかった点を次にどうつないでいくか考えるようになり、不足していた点からは、指導方法の工夫を考えたり、教材の解釈の仕方や指導に必要な教材、子どものどこを見ればよいのかなどが見えてきます。

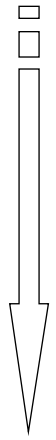
複数の教員による意見交換を大切にします。
意見交換からは、より優れた指導方法や子どもへの柔軟な対応、深い子ども理解の方法などを知ることができます。その知識や考え方を参加者全員が共有しながら、各自が今後、どんな点について改善したり、努力したりすればよいかを「自ら気付く」ことができます。

「なぜ？」の問いを有効に活用し「気付き」をうながします。



注：リフレクションの進行役をプロンプターといいます。プロンプターについては、「7 コーチングと板書を活用した授業・単元リフレクションの基本形」の中で説明しています。

C 授業づくり相談



授業づくり相談のポイントは

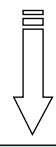
授業づくりの上での細かな課題の解決に向けて、焦点化した話し合いが大切です。

例えば、
「この教材の解釈は、こんなふうにも考えられませんか？」
「発問に仕方のバリエーションを増やしたいのですが？」
「この資料のほかに、なにか別のものはありますか？」
「グループでの話し合いを活発にするにはどうすればいいでしょう？」
等、ピンポイントでの相談が有効であると思います。

「情報の交流」と考えるとよいと思います。持っている財産を出しましょう！



授業の再構想



授業の再構想から授業へのポイントは

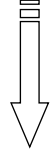
「授業構想」から「C 授業相談」までの過程の中で、気付いた課題や大切にしたい点をクラスの子どもの実態と照らし合わせて授業を再構成します。

授業者は、子どもの学びの姿を見取ったり、授業を通して気付いたことをメモしておきましょう。

「リフレクション」を効果的に行うために、児童を中心に授業を録画しておくことをおすすめします。



授業



振り返り
(自己リフレクション)

自己リフレクションを行うときのポイントは
例えば

授業後、自己リフレクションを行います。
「自己リフレクションシート」等に、見取った子どもの学びの事実や授業でよかった点、気になった点を記入します。そして、次の授業に向けての工夫を考えます。

授業・単元改善シート (自己リフレクション ver.1)		
単元・題材名 []		
本単元・題材の構想や実施上での思いや願い		
H	年 組	確認
授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	
授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	
授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	

- 自己リフレクションのひとつの例
- 1 実施した授業について思いつくまま振り返ります。
 - 2 気になった点やよかった点、納得いかなかったところ等を洗い出します。
 - 3 2について、自分自身の見取りや記録、子どものノートや感想、授業を録画したVTR等から考えます。
 - 4 3で考えたことから結論を導き、自ら納得でき、次の授業に向けての工夫や配慮事項が決まったとき自己リフレクションを終わります。

* 「自己リフレクションシート」は、「活用に向けての資料」P 21 に記載しています。

自分の授業を反省的に考察する授業研究の方法です。



D 授業・単元
リフレクション

授業・単元リフレクションを行うポイントは

よりよい授業・単元をつくるための4つの方法のうち、一番、大切です。数多く行うことをおすすめします。
よりよい授業や単元を構想し、実践する指導者の4つの資質能力「指導方法の工夫」「深い子ども理解」「深い教材研究」「情熱・使命感」を観点として、振り返りを行うと効果的です。

意見交換を大切に！
そこから、気づきが生まれます。



ここでは、「特に力をつけたい」と考える授業・単元づくりの流れを示しました。
各学校、各学年等の実態に応じて様々な流れが考えられます。
効果的であると考えるものから、取り組んでください。

コラム コーチングや板書を リフレクションに活用する理由



授業リフレクションについては、これまで授業改善の手法、研究開発の手法として個人、学校ぐるみで活用され、定着してきました。

実施されてきたリフレクションの「優れた点」と実施上配慮を要する「配慮点の例」は、以下のようになります。そこで、**配慮点の例を改善するために深い気付きを促し、自発性を育てるコーチングとまとめの共通理解、共有化を図る板書**を活用しましょう。

優れた点

行動につながる
深い児童生徒理解

リフレクションには下記のような優れた点があります

授業者自身の気付きを促せる。

結果 自分で感じたり考えたことは、その後、**実行する可能性が高い。**

児童生徒の事実に基づく推論、議論ができる。

結果 児童生徒を見ようとする**意識や見る力が高まる。**

児童生徒にとっての授業の成果や課題を考えたり、協議できる。

結果 教材や指導方法と児童生徒との関係から、**よりよい授業づくりの方向が見えてくる。**

熟練教師による授業づくり方法の伝授がある。

結果 **授業理論の形成と指導バリエーションが拡大する。**

配慮点の例

時間がかかる
深まらない時もある
共通理解・共有化できない時もある

リフレクションでは下記のような配慮点の例があります

1: 人の思考は、緩急や広がり、思考の方向に個人差が大きいいため、結果的に授業研究会としての**時間が比較的、長く必要となる。**

2: 人によっては、**深まらないこともある。**

3: 話したことは消えてしまい、話をしている**部分しか見えず、共通理解、共有化されずに終える**可能性がある。

4: 対話・集団リフレクションは構成員の**人間関係に左右されやすい。**

5: 優れたプロンプターを**計画的に育成する必要がある。**

利用者の願い

リフレクションを利用すると下記のような願いをもちます

深い気付きを促したい

時間の短縮を図りたい

話し合って見つけた内容全体を共通理解したい

改善・充実に向けて

深い気付きを促し、自発性を育てるコーチングの活用
まとめの共通理解、共有化を図る板書

リフレクションの改善・充実に向けた二つの方策です

コーチングの活用

板書の活用

7 コーティングと板書を活用した 授業・単元リフレクションの基本形

コーティングと板書を活用した授業・単元リフレクションの基本型（60分完了）を進行役のプロンプターの立場で解説します。最初は、この流れに沿って試してみてください。また、〔基本フレーズ〕を参考に〔私のフレーズ〕を考え、記入してみましょう。なお、この基本型は、リフレクション導入のために作成したものです。是非、基本型を試してみたら、ご自身なりの形をつくり、基本型を越えてください。

ステップ1 実施した授業や単元について感想を聞きましょう

自由に会話できる雰囲気づくりに努めましょう。
例えば、授業で頑張っていた子どものこと話してみませんか。

雰囲気づくり

私なりのフレーズを
考えてみましょう



〔基本フレーズ〕

今日の君、びっくりするほど活躍していましたね。
成長を感じますね。
あの場面で、さん、よく“ が分かりません ”
って言えたのは、立派、立派。

〔私のフレーズ〕

授業者に今日の授業の「良かったと思う点」「不十分だったと思う点」を聞いてみましょう。
できたら初めは、「良かったと思う点」から聞きましょう。

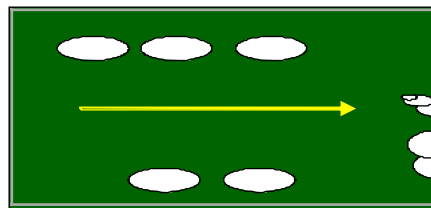
良かった点は

〔基本フレーズ〕

今日の授業（単元）で「よかったと思う点」「不十分だったと思う点」を2～3、あげてください。
今日の授業（単元）は、何点くらいでしたか？
（授業者「点くらいかな」）
プラス点、マイナス点は、どんな場面からですか？

〔私のフレーズ〕

〔板書の基本型〕



上によかった点
下の不十分な点

■ 視点を変えて「良かったと思う点」「不十分だったと思う点」を聞いてみましょう。

視点を変えて

【基本フレーズ】

子どもの立場で考えると今日の授業は、どこが興味深かったですか？

初任者のころの先生が、今日の授業を参観していたらどの点を参考にしたいと思いますか？

【私のフレーズ】

ステップ2 理想像、未来像を仮にイメージしてもらいましょう

今回の授業は、どんなことを心がけて実施したのか。また、どんな授業を理想とし、将来してみたいと願っているのか聞いてみましょう。

願いを明確化に

【基本フレーズ】

今回の授業で心がけたことを教えてください。

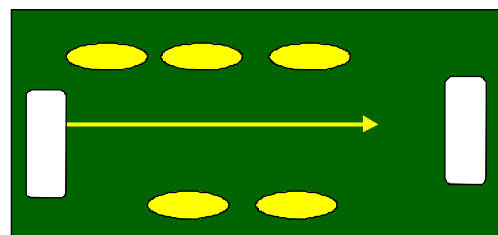
今日はどんな授業（単元）をしたいと思いませんか？

今回のような単元でどんな授業をしてみたいと思いませんか？

さんが考える理想の授業、夢の授業、将来してみたい授業を教えてください。

【私のフレーズ】

【板書の基本型】



左に今回の授業
右に理想、夢の
授業

ステップ3 考えと事実をつなぎましょう(よりよい指導を探る)

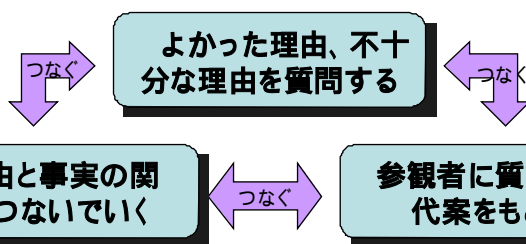
次の三つの視点から授業者に質問紙ながら、参加者に意見や代案等を聞きましょう。そして、三つの視点をできるだけつなぎ合わせるようにすると話し合いが深まります。

また、「3 よりよい授業や単元を構想、実施する指導者の資質・能力」で示した四つ資質・能力(「深い教材研究」「深い子ども理解」「指導方法の工夫」「情熱・使命感」)についてバランスよく発言を 求めるようにしましょう。

なお、自校の目指す児童生徒像がある場合は、目指す児童生徒像 についての質問を加えることを勧めます。

終了予定時刻になったら、ステップ4に進みます。

話し合いを深めるポイントは「根拠を聞くこと」「発言をつなくこと」「全員発言」です。



■ ステップ1で聞いた「良かったと思う点」の理由について聞いてみましょう。「不十分だったと思う点」は、理由と対策を聞いてみましょう。

理由を明確に

【基本フレーズ】

よかった点と不十分な点の理由を教えてください？
不十分だった点を解決するには、どんなふうにすればいいと思いますか？
子どもの立場で考えると.....たと思いますか？

【私のフレーズ】

■ 理由をささえる事実(子どもの姿や感想、場面等)を参加者全員で考え、「良かったと思う点」の理由、「不十分だったと思う点」の理由や対策をまとめましょう。

理由を支える事実は

【基本フレーズ】

それは、どこから感じたり、考えたりしたのですか？
どの発言(姿、感想、行動 等)からそう考えたのですか？
それを確認するとしたらどの子に聞いてみていいですか？
なぜ？

【私のフレーズ】

■ 全員の参観者の方に質問、意見、代案のいずれか一つ以上を発言
いただきましょう。

参加者全員で

【基本フレーズ】

について、ご覧になっていた方々はどう見られ（思
われ）ましたか？

の場面で 君の立場だと、どんなふうに考えた
と思いますか？

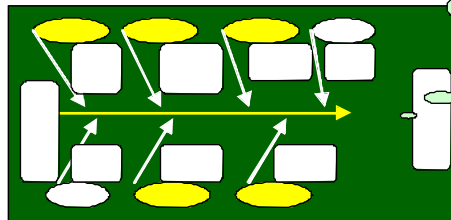
の場面で さんが、 したのはどうしてでし
ょうか？

もし、 の場面で （指導方法）したらどうでし
ょうか？

もし、他の方法があるとしたらどんな方法でしょう
か？

【私のフレーズ】

【板書の基本型】



理由や解決策、
追加案等を記入

ステップ4 今後、大切にしたい点を質問しましょう

まとめた内容全てを継続したり、改善することは網羅的になり
すぎたり、時間的な制約から実現できないこともあります。

そこで、継続したい点や改善したい点を重点化しましょう。

さらに、重点化した点を次回の授業で実現するために心掛けたい
点を明らかにしましょう。

取組を絞ると

【基本フレーズ】

この中で、「これを大切にしたい」と思う項目を上から
2つ、下から2つくらい選んでください。

これらを選んだ理由を教えてください。

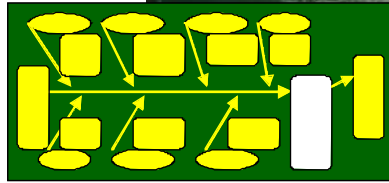
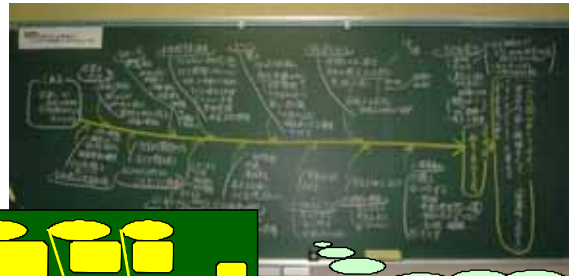
それを実現するためには、どんなことを心がけたり、取
り組んだらいいと思いますか？

それを実現するには、どんな手助けが必要でしょうか？

その取組によりどんな資質能力が向上しますか？

【私のフレーズ】

今後、大切にしたい点は、カラー
チョーク等でマーキングしましょう。
また、デジタルカメラ等で記録し、参
加者に印刷、配布しましょう。



理由や解決策、追加案
次時の心掛け等を記入

ステップ5 学んだことを共有しましょう

最後にこの授業研究会で学んだことを全員で共有しましょう。学んだ内容を交流することにより、気付かなかった点に気づき、一人一人の深まりや広がりにつながります。
また、これからどんなふうに取り組むかについて交流すると、改善に向けた方法が明らかになります。

知恵の共有を

【基本フレーズ】

今回の授業研究会で、よかった、勉強になったと感じた点を教えてください。
もし、これらが実現したら、どんな子ども、クラス、どんな自分、職員組織になるでしょうか？ そのイメージを教えてください。
これからどんなふうに取り組んでいきますか？

【私のフレーズ】

プロンプターの心得

--- 傾聴、承認、質問、提案を通して共に学び、伸長する気持ちを大切に ---

共に成長する
関係を大切に!!

授業単元リフレクションの実施人数は5～6名が理想です。多くても9名以下にしましょう。
話しやすい雰囲気づくり
質問される人は、自身を責められているように感じます。そこで、**肯定的な質問、肯定的な発言、肯定的なスタンス**を心掛けましょう。
授業者が**自身の内面に気付いたり、気づきを引き出すような発問**を心掛けましょう。
参加者の**発言と児童生徒の姿をできるだけつなぎあわせて**、参加者が児童生徒の具体的な姿をイメージとして理解できるようにしましょう。
授業や単元づくりの**4つの要素(資質・能力)**で欠けているところがないか確認しましょう。
参加者全員が気持ちよく発言できるよう声を掛けましょう。(発言を求める)板書や確認の言葉で、全員が**共通理解しながら進行**できるようにしましょう。



コラム コーティングと板書を活用した授業・単元リフレクションの実践例

実際に行ったりリフレクションの記録です。イメージをつかむことができます。



P : プロンプター B : 授業者 小6 社会「長く続いた戦争と人々の暮らし」
前橋市立宮城小学校での実践

P : 「子ども理解が深まったのはどこですか」
B : 「2時間に1回、プリントに書かせた授業の感想ですかね。あと、戦争の話題でよく子どもと話をしたことで子ども理解が深まりました。」
P : 「たとえば、どんな話ですか」
B : 「今日だと、なぜ戦争が始まったのか、授業でもふれたところなのですが、そこにこだわっている男の子がいました。ホワイトボードに赤で地図を書きながら、わざと大きい声で説明したら、まわりにいた子も真剣に聞いていました。また、授業では、急いでしまったところなどもよく話をしました。あと、おじいちゃんの戦争体験の話なども・・・」

質問の意図

A

子ども理解を深めるために、授業者が行ってきたことの具体化

P : 「今回の実践の中から見えてきたB先生流よりよい授業とは」
B : 「よりよいとは、自分の授業ということですか」
P : 「そうですね。こういう授業が理想というか、今回の実践から見えてきたものはありますか」
B : 「むずかしいですね。普段から授業をよりよくしていこうと思っていることなのですが。子どもが活躍する姿、一生懸命な姿がたくさん見られる授業ですかね。今回の実践は、時間をかけて授業づくりをしてきたので、そのことをたくさん考えてきました。」
P : 「活躍するとは、具体的にいうとどんなことですか。」
B : 「子どもが一生懸命に悩み、考えることですかね。」
P : 「子どもが一生懸命悩み、考える授業。いいですね。子どもが活躍する授業を目指してこれからもがんばっていきましょう」

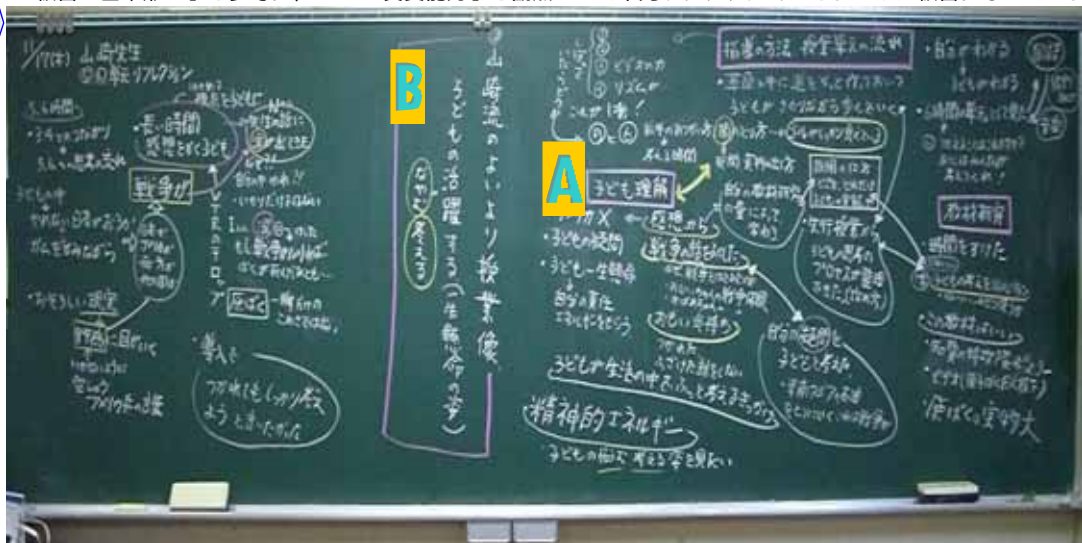
質問の意図

B

具体的な子どもの姿をもった理想の授業像の明確化



上記のB教諭に行ったコーチングと板書を活用した単元リフレクションの板書(小6 社会)です。
「板書の基本形」を参考に、「4つの資質能力」を観点として単元リフレクションをまとめた板書になっています。



コラム 学校での活用に向けて

授業・単元づくりの方法を学校に導入するための方法例を示しました。



授業・単元構想力、実践力を高める「授業・単元づくりの方法」を学校に導入するためには、例えば、研修主任を中心に「校内研修」で取り組むことが考えられます。

研修は、日常的なものであってこそ成果に結びつくと思います。

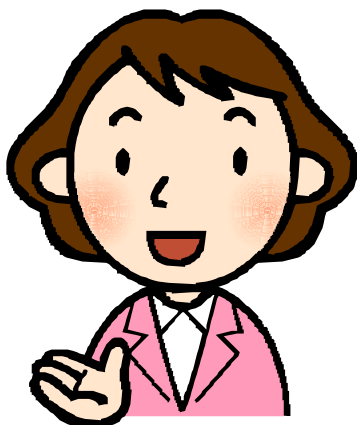
校内研修が楽しい職場に！

各学年や各学年ブロック、各教科ブロックに応じた「授業・単元づくり」の過程を選択し、取り組むことで「教師の学び合い」の場を設定できます。

「実践の成果と課題」を蓄積していく場として、「校内研修全体会」の活用が考えられます。校内研修全体会では、各学年や各学年ブロック、各教科ブロックの実践の「成果と課題」を明確にし、そこから学んだことを共有し、蓄積していくことを目的とします。

目指すところは、 「自分自身の授業力を高めること！」

大村はま氏は『教えるということ』の中で、次のように述べられています。



～（途中略）～

もっともっと大事なことは、研究をしていて、勉強の苦しみと喜びをひしひしと、日に日に感じていること、そして、伸びたい希望が胸にあふれていることです。

私は、これこそ教師の資格だと思うんです。

授業・単元づくりの方法が多くの学校で活用され、教師も子どもともに成長できればと考えます。

授業・単元改善シート (参観者 → 授業者 → 参観者 ver.1)

授業者: _____ (年 組) 教科等: _____ 参観者: _____ 平成 ____年 ____月 ____日 ()

	共通の視点 (高等学校で設定)	4321	
1	子どもが自身の学習課題ととらえ、取り組んでいる		(授業記録) (できるだけ具体的な事実をメモしましょう) → (こうすれば要に よくなります)
2	的確な指示・発問により学習活動が展開している		
3	分かりやすい説明・解説により確実に理解している		
4	子ども同士の学び合いにより学習が深まっている		
5	指導の工夫や的確な対応により子どもが活躍している		
6	適切な個別・グループ指導により遅れる子がいない		
7	ほとんまりのある授業により子どもが確解・復習できる		
8	分かりやすい学習のまとめにより子どもが安心している		
9	次時への期待感や課題意識をもっている		
10	その他()		

	参観者自身の視点	4321	
1			(私にとって)
2			
3			
4			
5			
6			
7			

(さんへ) / 通信 (さんへ)

授業・単元改善シート (参観者 → 授業者 → 参観者 ver.1)

授業者: _____ (年 組) 教科等: _____ 参観者: _____ 平成 ____年 ____月 ____日 ()

	共通の視点 (高等学校で設定)	4321	
1	子どもが自身の学習課題ととらえ、取り組んでいる		(授業記録) (できるだけ具体的な事実をメモしましょう) → (こうすれば要に よくなります)
2	的確な指示・発問により学習活動が展開している		
3	分かりやすい説明・解説により確実に理解している		
4	子ども同士の学び合いにより学習が深まっている		
5	指導の工夫や的確な対応により子どもが活躍している		
6	適切な個別・グループ指導により遅れる子がいない		
7	ほとんまりのある授業により子どもが確解・復習できる		
8	分かりやすい学習のまとめにより子どもが安心している		
9	次時への期待感や課題意識をもっている		
10	その他()		

	参観者自身の視点	4321	
1			(私にとって)
2			
3			
4			
5			
6			
7			

(さんへ) / 通信 (さんへ)

◇各学校の研修主題や課題に応じて学校で共通の視点を作成してください。

◇授業のなかでおきていた事実(例:児童生活の反応の様子、発言の内容やつながらりに目を向け、その事実をメモしましょう。)

◇授業者の授業や単元が更に優れたものになるよう、アドバイスや代案を記述しましょう。

◇参観される先生の経験を生かして、各自で視点を設定してください。

◇今回の参観授業や授業研究会から参観者自身が学んだ事柄をまとめましょう。

◇参観者から授業者に言いたかった一言を伝えよう。◇授業者から参観者への感謝の気持ちをも一言、添えて参観者に残しましょう。(通信)

授業・単元改善シート (自己リフレクション ver.1)		
単元・題材名() 本単元・題材の構想や実施上での思いや願い		
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)
H . . . 年 組 授業での工夫や配慮	感想(良かった点、納得いかない点)	確認(見とり、記録、ノート、感想他)

研究を進めるにあたり、学校現場における試行実践を重視ししたいため、下記の5校、8名の先生方に研究協力員としてご協力いただきました。特に、宮城小学校の3人の先生方には、平成17年10月から11月にかけて、「授業実践」もお願いし、研究にご協力いただきました。

吉田 真一	教諭	(前橋市立宮城小学校)
山崎 力	教諭	(前橋市立宮城小学校)
伊藤多江子	教諭	(前橋市立宮城小学校)
松島 隆	教諭	(太田市立旭中学校)
清水 静子	教諭	(藤岡市立美土里小学校)
福田 守宏	教諭	(館林市立第四中学校)
大澤 好則	教諭	(館林市立第四中学校)
高橋 徹	教諭	(渋川市立赤城南中学校)

勤務校は平成18年3月末現在

また、本冊子の作成にあたり、平成16年度 学校経営グループ 長期研修員 松島 隆 教諭(太田市立旭中学校)、岸 卓 教諭(吉岡町立明治小学校)の作成された「教室をひらけば授業が変わる(週案簿から始める授業改善支援資料集)」のデータの一部を活用させていただきました。

多くの先生方のご協力により、「教師の学び合いから授業力を高めよう!(授業・単元づくり支援資料集)」として、本冊子を作成することができました。

この場をお借りして感謝申し上げます。

平成18年3月 発行
群馬県総合教育センター
学校経営グループ 加alam・マゼ'メント班
平成17年度 長期研修員 板橋 均
学校経営グループ 指導主事 関口 満